



まちのできごと



●第35回どんど焼き・むかしあそび

昨年、無観客で行われた「どんど焼き」、今年はやっとなべゴマや羽根つきなどの「むかしあそび」とともに行うことができました。

4つの団体(けやきコミュニティ協議会、緑町コミュニティ協議会、大野田地域子ども館推進会議、青少協大野田地区委員会)の共同で、1月14日(土)に開催され大勢の地域の方々や子どもたちで賑わいました。大野田小学校の校庭には災厄を吹き飛ばす竹のはじける音が響き、お囃子をバックに子どもたちの楽しい笑い声が聞かれました。(北町五丁目町会)

●町内一斉清掃と消火器操作訓練

昨年11月27日(日)、3年ぶりに町内の一斉清掃を行いました。参加者は81名で、落葉樹の葉っぱやタバコの吸い殻なども回収しました。清掃終了後、緑町ふれあい広場で、消防署のご指導のもと消火器操作訓練を行いました。

お子さんたちが積極的に参加してくれましたが、「大人の参加者が少なかったのは残念」とは町会長の感想でした。同日に行われたクリーンセンター運営協議会主催のイベントと日程が重なってしまったのは、今後の課題と受け止めています。(緑町三丁目町会)

●団地一斉清掃と安否確認訓練、クリスマス

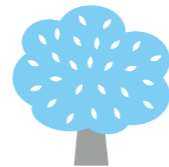
11月27日(日)に団地の一斉清掃「クリーンデー」を実施し、350名を超える参加がありました。子どもたちは落ち葉はきをした後、参加賞のスケッチブックをうれしそうに抱えていました。また、同時に大地震発生を想定して全戸の安否確認訓練を行い、6割以上の世帯が参加しました。

12月18日(日)には、子どもたちのクリスマスイベント、5つの公園をめぐるクイズスタンプラリーを開催。クイズは、団地ができる前に野球場があったこと、新しい遊具が入った公園の名前を考えてみようなど。参加した約80名の子どもたち全員にプレゼントが渡されました。(武蔵野緑町パークタウン自治会)

●自主防災活動=小さな防災への取り組み

11月20日(日)、3年ぶりの防災訓練を行いました。消防署のご協力を受け、はしご車による救助やたんかの使用方法の確認などを行いました。また、各戸に簡易トイレ、防寒・防風アルミシートを配布し『命を守ること』につながる活動に取り組んでいます。

コロナ禍の影響で制限されてきた自治会の活動も徐々に再開され、改めて人と人とのつながりを意識する毎日です。(武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会)



* 編集後記 *

クリーンセンターのエコマルシェと同時開催した運営協議会イベントの中でのミニ講座『リチウムイオン電池の分別について』は、市民のみなさんに不燃・粗大ごみ処理施設での事故のしくみや正しい分別を理解していただくことで事故を防ぐ対策の一つとして大変有意義でした。小型家電の分別に際しての注意を促すものとして、今後何度も開催してほしいと期待します。(狩野耕一郎)

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5
武蔵野クリーンセンター内
電話: 0422-54-1221
●武蔵野市ホームページ
<https://www.city.musashino.lg.jp/>

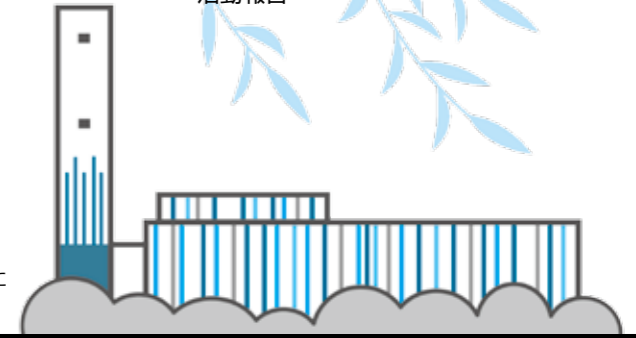
この広報は、再生紙を使用しています。

武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 82

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された
周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

CONTENTS

- P1...ごみのお悩みはLINEで解決!
- P2...楽しく学べる! 運営協議会イベント
- P4...まちのできごと 活動報告



ごみに関する情報など、武蔵野市の知りたい情報をお届け ごみのお悩みはLINEで解決!

武蔵野市公式LINEアカウントは、令和2年11月にリニューアルされました。「受信設定アンケート」メニューから受け取りたい情報を選択して、欲しい情報のみが届きます。また、会話形式のチャットボット(自動で対話するプログラム)で、知りたい情報を簡単に調べられます。

ごみに関する情報をご紹介します

①翌日の収集日をお知らせ

受信設定アンケートで「ごみ・リサイクル」を選択し、お住まいの地域を登録すると前日17時にお知らせします。



②チャットボット機能

会話形式でごみカレンダーや粗大ごみなどの情報を検索できます。途中でやめたいときは、開始時の各種「メニュー開始」の右に表示される「中止する(途中で終了する)」で「はい」をクリック、またはコメント入力欄に「中止」と入力、送信してください。



③分別検索機能

トーク画面のコメント入力欄に捨てるものの品名を入力、送信すると自動でお答えします。

◀ 検索のコツ ▶

①品名だけを入力
例) ×電池の捨て方 ○電池

②呼び方で試す
例) ×レンジ ○電子レンジ

※現在登録されているごみの品名は約600種類。今後増やしていく予定です。



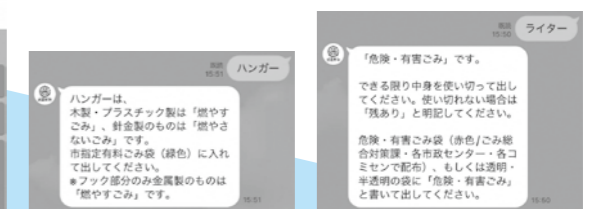
▶ 友だち登録方法

- ①スマートフォンからLINEアプリをダウンロード
- ②LINEアプリのホーム画面から「武蔵野市」、または「@musashinocity」を検索 ※右のQRコードからアクセスしてもOK



- ③メニューの「受信設定アンケート」から欲しい情報を選んで登録

ごみ以外にも防災、届出・税のこと、講座・イベントなど、さまざまな情報をお届けしています。



楽しく学べる！運営協議会イベント

2022年11月27日(日)、クリーンセンター運営協議会のイベントを開催しました。
午前中はエコre ゾート1階のフリースペースでミニ講座と第四中学校吹奏楽部のコンサートを開催。
午後からはクリーンセンター2階の通路のデッキと見学者ホールで、
地元新鮮野菜の販売と「タネダンゴづくり」のワークショップを行いました。

●ミニ講座 リチウムイオン電池の分別について 講師/ごみ総合対策課

リチウムイオン電池の発煙・発火事故が全国的に社会問題化しており、クリーンセンターでもこれまで7件の消防車出動による火災事故が発生しています。
リチウムイオン電池は危険・有害ごみですが、不燃ごみに混入して出されると、ごみ処理の際に発火・発煙事故の原因になり大変危険です。小型家電の中に内蔵されているとわからないこともあり、分別を間違えることも多いようです。こうした事故を減らすために、市民のみなさんに正しい分別、出し方を知っていただきたいと思い、この講座を実施しました。

リチウムイオン電池が使われている製品、圧力を加えて発煙する実験動画、火災事故の写真などでその危険性を伝え、分別の方法、正しい出し方や小型家電回収ボックスを紹介しました。
参加者から「お〜っ」と声が上がったのは、リチウムイオン電池が使われている製品の实物を見せたとき、リチウムイオン電池に圧力を加えた実験動画を観たとき。特に「ワイヤレスイヤホン」や「携帯用扇風機」に使われていることはあまり知られていませんでした。動画の映像もインパクトがあったようです。

●ミニコンサート 武蔵野第四中学校 吹奏楽部演奏会



エコre ゾートのフリースペースいっぱいの聴衆。



発煙事故の際に残った、リチウムイオン電池の燃えかすを見せて説明しました。初めて見る燃えかすに参加者はびっくり！

終了後のアンケートでは、「電池を外して出すことは知っていたが、リチウムイオン電池の捨て方は知らなかった」「実際に発火する様子を動画で見て危険を感じた」「毎日火災が起きていることに驚いた。今後は安全な分別を心がけたい」などの感想が寄せられました。
日々出されるごみを安全に、安定して処理するよう、クリーンセンターでは努力を続けていますが、市民のみなさんのご協力がとても大事であることを最後にお伝えして、無事終わることができました。

ミニ講座のあと、武蔵野市立第四中学校吹奏楽部のみなさんによるコンサートが開催されました。
エコre ゾートの1階フリースペースに150名以上の観客が見守る中、演奏された曲目は定番『士官候補生』(明るく元気な気持ちにさせてくれる行進曲)、『ききみずきん』(演奏と語りが相まって、物語の世界にいざなわれた印象)、『秋のメドレー』(赤とんぼ → うさぎ → 虫の声 → 七つの子)。その巧みな演奏に聴衆のみなさんも笑顔。最後に盛大なアンコールで『J-POPメドレー』も披露してくださいました。
「すばらしい！」と感嘆の声しきりで、和気あいの雰囲気のと時でした。
演奏してくださった吹奏楽部のみなさん、そして見事な指揮を執られた先生、ありがとうございました。

●野菜販売 旬の地元野菜がいっぱい

大きなカブや大根、太くてりっぱなネギ、新鮮な春菊やブロッコリーなど、地元の新鮮な野菜を販売し、好評でした。



●ワークショップ タネダンゴづくり

緑によるまちづくりを進めている栗原国男氏を講師にお招きして、2回のワークショップが行われ、小さいお子さんから高齢の方まで39名が参加して楽しそうにお団子を作り、みなさんが4つのタネダンゴを持ち帰りました。
花の種は、市販の秋まきの6種類(ヒメキンギョソウ、ネモフィラ、ハナビシソウ、カスミソウ、ヤグルマギク、ムギセンノウ)のミックス。大きさや生育する高さ、葉っぱの形、花の咲く時期などバラエティに富んでいます。成長を観察することも楽しみの一つです。ワークショップのあと、エコre ゾート南側の植込みにも植えつけました。3月頃から初夏まで徐々に花が咲くので、散歩のついでに探してみてください。

タネダンゴとは

土と肥料や花の種を混ぜて丸めた土のお団子です。普通の土に種を撒くより発芽しやすいため、荒れた土地や傾斜地、過酷な環境にも対応でき、小さな子どもにも簡単に作れます。
泥団子による緑化手法は、自然農法家の福岡正信氏が砂漠緑化のために開発した「種入り泥団子」が始まりで、「雨が降り発芽条件が整うまでネズミや鳥などから種子を守り、一年の間に何種類かの植物が生き残り、緑化の手がかりとなる」ことを目指しています。

タネダンゴの育て方

タネダンゴは、なるべく早くプランターや花壇に植えつけます。植え方は、耕した土の上に平らにつぶして置き5mmほど土をかけるだけ。一つのお団子が大きく広がるので、約30cm間隔で植え、発芽するまで水やりをします。発芽すれば根が張り、屋外でも冬越しできるそうですが、イベントが11月末だったので、風除けなどの寒さ対策についても教わりました。

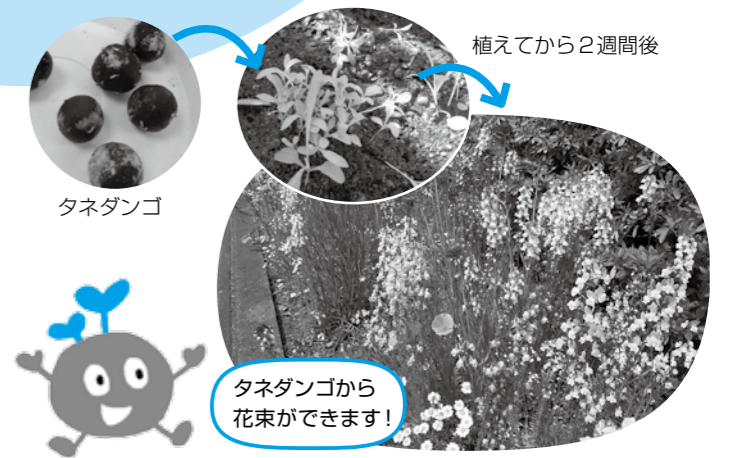
タネダンゴの作り方

- ①ケト土と小粒の赤玉土を2対1の割合で混ぜ、発芽を促す鉄分(二価鉄イオン水)を加えて混ぜる。
よく混ぜる
二価鉄イオン水
ケト土2
赤玉土1
- ②ピンポン玉大の親ダンゴを作る。それを半分に分け、さらに半分にして4個に分ける。
- ③ダンゴに指で軽く穴を開け、肥料を入れ、丸める。
- ④ダンゴの上下に種をつける。種が落ちないように軽く丸める。
- ⑤仕上げに発芽を促す粉末(ケイ酸塩白土)をまぶしできあがり。

●植え付けのコツ

- ・ダンゴを軽くつぶし、土を軽くかける。
- ・深く植えると発芽しない。
- ・また、乾燥すると発芽しない。
- ・発芽するまで光の当たらない暖かい所に置き、水やりをする。
- ・花壇の場合は、保温のために寒冷紗があるとよい。

タネダンゴの生長



イベント中止が続いたコロナ禍にあって大勢のご参加を得て、久しぶりに充実した内容のイベントを開催できました。今、クリーンセンターで大問題となっている「リチウムイオン電池の分別」をみなさんと一緒に学び、第四中学校吹奏楽部の演奏やタネダンゴづくりのワークショップなど楽しい時間を過ごしました。このようにエコre ゾートとクリーンセンターを中心に、周辺の住民の輪が広がることや、イベントを通じてクリーンセンター運営協議会の活動を知っていただく機会を増やしていけたらと思っています。